

祇園祭 蠅螂山

中村圭 (同志社大学社会学部嘱託講師)

制作者・著作権者：中村圭

制作年：2005年

上映時間：24分

日本三大祭の一つである祇園祭は千百余年の昔、疫病の災厄除去を祈って始まった。よく知られている祭りのクライマックスは7月17日の山鉾巡行であるが、行列をなす32基の山と鉾は、市内中心部の各町内単位で運営されている。昔、山鉾巡行の先陣争いが絶えなかったことから、巡行の順番は7月2日のくじ取り式で決められる。このくじ取り式をふくむ祭礼に関する行事は、6月末に行われる厄よけのちまき作りの準備に始まり、7月1日の吉符入之儀から1ヶ月に渡って行われる。これらの行事は京都の町衆の情熱と叡智により連綿と引き継がれて来ており、現在でも山鉾に関する行事というのは、山鉾町に住む人々を中心とした心意気と奉仕によって受け継がれている。本作品はその山鉾のひとつ、蠅螂山を擁する蠅螂山町について祭りの期間に密着し、現代における都市祭礼行事と祭りを引き継ぐ人々を映像で記述する。蠅螂山の特徴は、かまきりと御所車の車輪が動くなど、山鉾として唯一のからくりがほどこされていることである。前懸、胴懸、見送は人間国宝の羽田登喜男氏の友禅が使用されていることから、平成の友禅山とも呼ばれている。